

みやまえ地域カルタ 平中学校区版

いつまでも、伝えたい、残したい、私たちのふる里

あ あそこにも
ここにも坂道
いっぱい平

平地区は平瀬川を挟んで丘陵となっており、坂道がとても多いところです。土地を造成して住宅地になった地域ですが、畑や田んぼも残っています。

か カワニナが
増えてとんもり
ホタル飛ぶ

ホタルの幼虫はカワニナを食べて成虫になり初夏の一刻を灯し、人々を魅しませてくれます。とんもり谷戸の自然を守る会のメンバーが、カワニナの増殖に励み、放流しています。

さ 桜咲く
平の里は
花かすみ

平は桜が多い地域で、春にはあちこちの桜が霞のように咲き、町全体をやさしく包んでくれます。

た 狸も住む
自然が残る
平高山

平の北部の多摩区と区境付近の平高山の尾根路沿いには、雑木林が残っており、今も数匹の狸が見られます。

な 何だろ
五所塚には
伝説いろいろ

五所塚は、付近で最も標高の高いところ。五所塚は、将門の乱で戦った5人の将の墓とする説や小田原の北条氏と戦った際、討ち死にした長尾形虎の従者の塚とする説など諸説がありますが、昔の村境にある民俗供養塚とも考えられています。

は 半鐘が
空から見守る
平の歴史

平瀬川に架かる「石橋」の近くの「平消防器具置場」の脇に火の見やぐらが残っています。現在は使われていませんが、長年、平の町を半鐘が見守っていました。

ま まちの樹だ
平にそびえる
大ケヤキ

平1丁目にあるこの大ケヤキは、交差点で信号待ちをしている人々の目に留まり、町の中の貴重な緑です。

や 谷戸の名を
今に残す
鶴喉坂

鶴喉坂は昔、この坂の周辺が「鶴ヶ谷」と呼ばれ、鶴の首(雫)のような谷戸だったことから愛称として付けられました。バス停留所「神木不動」付近から「五所塚」付近までの坂です。

る ルンロンと
ランドセル弾む
たいら坂

たいら坂は、向丘小学校横の坂で、坂を上り切ったところで平公園があることから愛称として付けられました。急な坂ですが、登下校時は子どもたちの声にきやかになります。

い いにしへの
人と登る
八幡宮

白幡八幡大神は、伝えによると、源氏ゆかりの神社で、源頼朝が鎌倉幕府を開いたときに再建したといわれています。鎌倉時代から稲毛領の総鎮守となり、江戸初期には稲毛舞が奉納され、現在も続いています。

き 木々多い
東高根で
四季を知る

県立東高根森林公園は、自然林に近い形で整備された広々とした公園で、四季を通じてさまざまな花を楽しむことができます。

し 巡拝を
終えてお参り
あがり観音

薬王庵の六地藏の間、正面に石造りの如意輪観音像の供養塔があります。塔は「あがり観音」と言い、三十三所観音霊場巡拝を終えた人々が巡拝します。この庵は、准西国稲毛領三十三所観音霊場を開いた山田平七ゆかりのものです。

ち 力強く
祭りを盛り上げる
平囃子

平囃子は、白幡八幡大神の祭礼などで、揃いの法被(はつぴ)・鉢巻で、笛・太鼓・鉦(かね)で、にぎやかに演じられています。

に 虹色の
アジサイが咲く
平緑地

平緑地は、平1丁目の斜面にある小さな公園で、アジサイ、ツツジ、アヤメ等があります。高台の途中にあり、夏の木陰は涼しく、見晴らしがよい公園です。

ひ 平瀬川
魚道を登る
鮎の子等

地域の方が、長年、平瀬川の環境を守ろうと取り組みを続けており、春には鮎の放流もされています。近年、きれいな平瀬川には、鮎が見られようになりました。

み 神輿を担いで
平のまちを
練り歩く

白幡八幡大神の例大祭に際しては、子ども会のお神輿も出て地域を練り歩き、秋の収穫を祝います。

ゆ 夕映えの
平瀬を渡る
陣屋橋

陣屋橋は、「平4丁目公園」の近くにあります。平瀬川に沿って歩き、橋の付近から夕刻の風景を眺めると、茜色の空と平瀬川の流れがきれいです。

れ レンゲ咲く
田んぼも残る
平かな

平には田んぼが残っていますが、以前は、もっと多くありました。田植え前の田んぼに咲くレンゲの風景は鮮やかです。

う うこん桜
春を告げるよ
東泉寺

東泉寺は、室町時代の文明13年に開かれ、当時は平瀬川の南側台地であり、泉が湧き出たところから東泉寺と名付けられました。いろいろな形をした屋根の町並みには、フコク桜があり、4月中旬には、派手ではないが豪華な花が、重々しく咲きます。

く 雲近く
屋根を見下ろす
見晴らし坂

五所塚1丁目にあるこの坂は、高台からの見晴らしがとてもよいことから「見晴らし坂」という愛称が付けられました。いろいろな形をした屋根の町並みが眺められます。

す 鋤の跡
次の収穫
楽しみだ

平は、宅地化が進んでいますが、畑が見られます。それらの畑ではある野菜を収穫すると、次の作物を植えるため土を耕し、肥料を働き込みます。その土の色は次の豊作を期待させてくれます。

つ つかの間の
春の風景
八重桜

平2丁目の「高山さくら公園」には、数本の八重桜があり、4月中旬に満開を迎え、華やかな風景が見られます。

ぬ ぬかるみを
わざわざ通る
通学路

舗装道路が多くなり、今は、ぬかるみというより水溜まりですが、学校の行き帰りにジャブジャブとはしゃいで歩く子どもたちの姿は、変わらず見られます。

ふ 富士山も
都心も見える
平高山

平の高山付近の尾根路からの見晴らしは良く、東側には、新宿副都心の高層ビルやスカイツリー、西側には丹沢、大山の向こうに富士山が見えます。

む 向小に
歴史を刻む
ヒマラヤ杉

向丘小学校は日本全国に「学校」を作るように決まりが出された明治5年に誕生し、今の場所に校舎ができたのは明治31年4月です。校舎横にあるヒマラヤ杉は、長年、向丘小学校の歴史を守っています。

よ 寄り添った
曼珠沙華揺れる
丘の土手

宅地化が進み、まじゆしゃげじかんバチの咲く土手も少なくなりましたが、今でも秋になると道端や民家の庭の隅に、寄り添って紅色の花が咲きます。

ろ 六地藏
やさしく見つめる
薬王庵

平4丁目の薬王庵の入り口には、六地藏が並んで微笑んでいます。時々赤いよだれ掛け等が付け替えられています。

え エゴの実を
今日もついで
ヤマガラたち

平地区は、宅地化が進みエゴノキも少なくなってきましたが、まだ、餌台に実を置いておくところ、つがいの子がママガラが飛んでくることがあります。

け けやき並木
通りに季節を
教えてる

平4丁目からおし沼へ抜け向ヶ丘遊園街に向かう道のケヤキ並木は、春の芽吹き、若葉、夏の生い茂った緑、秋の紅葉、冬の落葉した木立と四季それぞれの味わいのある景色を見せてくれます。

せ 生徒らの
胸の校章
平和を願う

平中学校の校章は、平という字を图案化し、「和」を基調とし、平和を願ってデザインされたものです。校舎の外壁にも取り付けられています。

て 手を合わせ
八幡様に
願ひ事

白幡八幡大神は、歴史のある神社で、地域の方が大切にされています。お正月には、多くの方が神妙にお参りしています。

ね ねぎまいの
古式ゆかしき
白幡八幡

稲宜舞の起源はつきりしませんが、徳川家康が関が原出陣の際に平村の白幡八幡社の神主だった小泉家「太々神楽」を興行させたのが始まりといわれています。

へ 平成の
今も残る
八幡講

白幡八幡大神の初卯祭は八幡講と呼ばれる3月初卯の日に行われます。大きな行事は4講中に分かれて大蛇を作ることを、各講で作ることで、各講に分かれての「お高もり」でしたが、現在「お高もり」は神様に供えるだけのご祭です。

め めでたいな
八幡宮で
七五三

毎年、七五三の時期には、子どもの無事な成長を喜び、将来の平安を願い、お参りをする親子の姿が見られます。

ら ランドセル
鴛鴦沼通りが
カラフルに

以前、おし沼の旧道と田んぼのあった風景は、今はがらりと変わりました。人口が増え、カラフルなランドセルを背負った小学生と、いろいろな色の自動車が、にぎやかに通り抜ける大通りになりました。

わ わらぶきの
山門くぐって
東泉寺

東泉寺は、室町時代に小田原北条時代の領主葛山平が平瀬川の南側の台地に建立したといわれています。山門は、藁葺きの立派な門で、江戸時代中頃に再建されたものです。

お 鴛鴦沼は
夫婦ゆかしき
家族増え

おし沼は、以前は数少ない農家が点在していた地域ですが、宅地化が進み、今は人口も増えにぎやかな町になってきています。

こ 高速下
子どもが描いた
夢がある

平5丁目と6丁目の境の東名高速道路の下に、壁面が描かれたトンネルが4箇所あります。これらの壁面は地元の子どもの描いたものです。

そ その花の
名前はなあに
図鑑みる

平地区は緑が多く、公園や花壇にはさまざまな花が見られます。外来種や新品種は、名前のわからない花も多いのではないのでしょうか。図鑑をみて、名前などを調べて、わかると大変嬉しいものです。

と どんぐりを
捜してみよう
三角公園

高山団地の児童公園は、地元の方から三角公園と呼ばれている小さな公園です。自然とふれあえ、どんぐりも拾うことができます。

の のらぼうを
摘んでおひたし
おいしいな

のらぼう菜はアブラナ科の野菜で、おひたしにするとおいしいです。摘みきれないで畑に残ったものは、菜の花のように咲き、きれいです。

ほ ホタルはね
飛森谷戸で
ライトショー

とんもり谷戸は、初山親水公園から川崎国際生田緑地ゴルフ場に至る800mにわたる地域です。ボランティアの方が里山の保存を行っており、清流には、初夏にゲンジボタルが飛び交う姿が見られます。

も 燃え上がれ
どんど焼きの
感謝の炎

毎年正月に平3丁目の土祖大神の前の広場(路上)で、一年の無病息災を願って、どんど焼きが行われます。毎年多くの子どもたちも参加しています。

り 力を入れ
初卯祭
射る

白幡八幡大神の初卯祭は、八幡講と呼ばれる、毎年3月初めの卯の日に、藁で作った大蛇を鳥居に飾り行われ、神事の後に5歳未満の男子2名によりのを射り、五穀豊穡を願います。

みやまえ地域カルタ 平中学校区版

いつまでも、伝えたい、残したい、私たちのふる里



みやまえ

宮前区役所

みやまえカルタ制作実行委員会